

昭和館館報

平成28年度

口 絵			
ごあいさつ	1	(2) データベース運用管理	17
フロア構成	2	(3) ホームページ運用管理	18
年間主要行事	3	(4) SNSの活用	19
		(5) Wi-Fi導入	19
平成28年度事業概要		2 オーラルヒストリーの制作	19
I 展示事業	4	3 海外資料調査の実施	20
1 常設展示	4	IV 啓発広報等事業	
(1) 常設展示の概要	4	1 広報活動	21
(2) 展示替え工事	4	(1) 広報資料の作成及び発送	21
(3) 展示資料の入れ替え	5	(2) 広報と掲示及び掲載	21
2 巡回特別企画展の開催	5	(3) 昭和館だよりの発行	22
(1) 第29回巡回特別企画展	6	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業	22
「もっと知りたい! 戦中・戦後の暮らし」(愛知展)		(5) 子ども霞が関見学デー	22
(2) 第30回巡回特別企画展	6	(6) 第15回昭和館見学作文コンクール	23
「もっと知りたい! 戦中・戦後の暮らし」(山梨展)		(7) 第9回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	23
3 貸出キット	7	2 『昭和の暮らし研究』の刊行	24
4 紙芝居定期上演会	8	3 展示資料の貸出	25
5 教員のための博物館体験	8	4 昭和館運営専門委員会の開催	25
6 実物資料の収集と保存	9	5 昭和館運営有識者会議の開催	26
II 図書映像資料等閲覧事業	10	6 インターンシップ	26
1 図書文献関係	10	7 関係施設等連携会議の開催等	26
(1) 運用管理	10	(1) 関係施設等連携会議の開催	27
① 閲覧室及び書庫の管理	10	(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」の実施	27
② レファレンス・サービス(参考調査業務)	10	(3) 移動教室「シベリア抑留を描くーVOL.4 収容所の日々」における連携	27
③ 利用ガイドの発行	10	(4) 巡回特別企画展の相互協力	27
④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配付、読書案内	10	V 特別企画展等の開催及び概要	28
⑤ ホームページ	11	1 「隣組」ってなんですか? ~助けられたり助けたり~	28
⑥ 蔵書点検	12	2 「ポスターに描かれた昭和~高橋春人の仕事」	29
⑦ 利用状況	12	3 写真展「ララ物資 ~太平洋を渡って差しのべられた救いの手~	31
(2) データ管理	13	4 写真展「桜、誘われ」	32
① 収蔵図書のデータ管理	13	5 資料公開コーナー	32
② 目次データ入力	13	参考	
(3) 保存管理	13	1 入場者状況の推移(平成11年度~28年度)	33
(4) 業務研修	13	2 平成28年度利用者実績	34
2 映像・音響関係	13	3 常設展示室入場者数	34
3 ニュースシアター	14	4 来館団体御芳名	35
4 収蔵資料	14	5 第15回昭和館見学作文コンクール 厚生労働大臣賞受賞作品	36
(1) 図書資料の収蔵状況	14	6 第9回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品	37
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	15	7 施設概要	38
III 関連情報提供事業	17	8 平成28年度寄贈者御芳名	40
1 運用管理	17		
(1) システム運用管理	17		

口 絵
外観写真





7階 常設展示室入口のトリックアート



7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」



6階 常設展示室「体験コーナー」



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



2階 ひろば
紙芝居定期上演会 (奇数月第4週日曜日)



特別企画展

「隣組」ってなんですか？～助けられたり助けたり～
(平成28年7月23日～9月4日)



特別企画展

ポスターに描かれた昭和～高橋春人の仕事
(平成29年3月11日～5月7日)



巡回特別企画展「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（愛知展）
桜華会館（松の間 竹の間 菊の間 梅の間 欄の間）
（平成28年10月23日～10月30日）



巡回特別企画展「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（山梨展）
山梨県立図書館イベントスペース
（平成28年11月30日～12月8日）

ご あ い さ つ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後（昭和10年頃から昭和30年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館し、平成29年1月20日に総入館者数が500万人を達成いたしました。次世代を担う小・中学生の来館者も年々増える傾向にあり、その中で500万人超えを達成できましたことは、当館の存在意義が多くの人々の理解を得つつあることのあかしであると考えております。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

ここに、平成28年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

平成28年度の入館者数は、35万3,600人で、戦後70年にあたる平成27年度の入館者数には及びませんが、ここ数年の傾向からしますと、順調な入館者状況になっていると受けとめております。

平成28年度の主な事業として、戦中・戦後を体験した方々が高齢となり、当時を直接語り伝えて行くことが難しくなっている時代を迎え、当時の体験と労苦、思いなどを後世に語り継いで行く「戦後世代の語り部」育成事業を昨年10月から開始しました。

また、夏の特別企画展「“隣組”ってなんですか？～助けられたり助けたり～」の開催をはじめ、常設展示室、映像・音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナーなどにより情報提供等を行ったほか、春の特別企画展、愛知県・山梨県での巡回特別企画展、2階広場での写真展、紙芝居の定期上演会、子ども霞ヶ関見学デー、小・中学生作文コンクール、中学生・高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作、貸し出しキットの充実などに取り組んで参りました。

さらに、しょうけい館・平和祈念展示資料館との連携事業も5年目を迎えて、夏休み3館めぐりスタンプラリー、巡回特別企画展の相互協力、シベリア絵画展での協力等を行いました。

終わりに、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年7月

昭和館
館長 羽毛田 信吾

フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・受付・総合案内

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

年間主要行事

平成28年 3月19日～4月17日	写真展を開催 「春のおとずれ」
3月19日～5月8日	特別企画展を開催 「双六でたどる戦中・戦後」
4月29日～	「昭和の日」記念イベント
5月22日～	紙芝居定期上演会（奇数月第4日曜日に開催）
6月7日～6月10日	インターンシップ 京華商業高等学校
6月14日～6月16日	インターンシップ 都立工芸高等学校
6月21日	平成28年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
6月27日～6月29日	常設展示室の資料交換（休室）
7月16日～8月31日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月26日～7月29日	インターンシップ 都立大島高等学校
7月27日～7月28日	子ども霞ヶ関見学デー（厚生労働省の会場）
7月23日～9月4日	特別企画展を開催 「隣組ってなんですか？～助けられたり助けたり～」
8月4日、9日、25日	教員のための博物館体験
8月15日	戦没者を追悼し平和を祈念する日
8月23日～8月25日	インターンシップ 東洋高等学校
9月13日～9月16日	インターンシップ 都立神津高等学校
9月17日～12月25日	写真展を開催「ララ物資～太平洋を渡って差しのべられた救いの手～」
10月23日～10月30日	第29回巡回特別企画展を開催 「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（愛知展）
11月30日～12月8日	第30回巡回特別企画展を開催 「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」（山梨展）
平成29年 1月28日～1月30日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
2月17日	平成28年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
3月1日～3月14日	図書室の資料整理を実施（休室）
3月13日～3月17日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
3月1日	紀要「昭和の暮らし研究」（第15号）を刊行
3月11日～5月7日	特別企画展を開催 「ポスターに描かれた昭和～高橋春人の仕事～」
3月15日	第16回昭和館運営有識者会議を開催
3月18日～4月16日	写真展を開催 「桜、誘われ」

平成28年度事業概要

I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。

(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

1 常設展示

(1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

(2) 展示替え工事

平成28年度及び29年度の2ヶ年で、第8回常設展示室展示替えの計画等を行い、「1 データ追加」と「2 展示改修の一部を、平成28年1月28日(土)から30日(月)にかけて実施した。

その他の項目についてはさらに検討を加え、平成29年度6月から7月にかけて制作・設置工事を行った。

コーナー名	内容	実施年度
1 データ追加		
(1)慰霊の旅コーナー 「慰霊の旅」システム文言 修正	現行のデータベースについて、「遺骨収集帰還」の文言を「遺骨収集」に修正する。	平成28年度ソフト制作・設置工事
(2)第4ブース 「空襲被害地図」資料追加	各都道府県の空襲被害状況写真を追加する。	平成28年度ソフト制作・設置工事
(3)各ブース 情報提供	情報提供端末に「用語解説」を追加する。	平成28年度ソフト制作・設置工事

2 展示改修		
(1)昭和20年8月15日	「玉音放送」音源を、宮内庁より受領した最新版に変更する。玉音放送についての現代語訳パネルを掲示する。	平成28年度ソフト制作・設置工事
(2)第4ブース「防空壕体験」	空襲の悲惨さをより現実的に体験できるよう、トリックアートを導入する。	平成29年度制作・設置工事
(3)ジオラマによる表現	人形師にジオラマ制作を依頼し、当時の青空教室の情景を再現する。	平成29年度制作・設置工事
3 体験ひろば		
(1)昔の電話で話してみよう！	黒電話、壁掛け電話を設置し、当時の電話がダイヤル式であったことや、受話器の重みを体験してもらう。現在の電話との違いを実感してもらう。	平成29年度制作・設置工事
(2)着てみよう！	「着てみよう！」コーナーにて記念撮影を行うための背景の設定(戦中・戦後の街並みなど。3種類交換可能とする)を検討する。	平成29年度制作・設置工事

(3) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。平成28年度は6月27日(月)から29日(水)と、展示替え工事の期間に実施した。

2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成28年度は、次の通り実施した。

(1) 第29回巡回特別企画展

「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」(愛知展)

開催期間	平成28年10月23日(日)～10月30日(日)
会場	桜華会館(松の間 竹の間 菊の間 梅の間 蘭の間) (名古屋市中区三の丸1-7-2)
主催	昭和館
協賛	愛知県遺族連合会
後援	愛知県 愛知県教育委員会 名古屋市 名古屋市教育委員会 日本遺族会第3ブロック 中日新聞社 NHK名古屋放送局 東海テレビ放送 CBCテレビ テレビ愛知
内容	愛知県関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通じ、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。 愛知県の戦中から戦後にかけての多数のポスターを実物及びデータベースで紹介する特設コーナーを設置した。
同時開催	「平和祈念展 in 名古屋」主催：平和祈念展示資料館 会場：名古屋市博物館3階ギャラリー7 「しょうけい館－戦傷病者史料館－名古屋展」 主催：しょうけい館 会場：名古屋市博物館3階ギャラリー5・6
入場者数	5,180人(648人/1日)

(2) 第30回巡回特別企画展

「もっと知りたい！戦中・戦後の暮らし」(山梨展)

開催期間	平成28年11月30日(水)～12月8日(木)
会場	山梨県立図書館 イベントスペース (甲府市北口2-8-1)
主催	昭和館
共催	山梨日日新聞社 山梨放送
協賛	日本遺族会第2ブロック(山梨県遺族会ほか)
後援	山梨県 山梨県教育委員会 甲府市 甲府市教育委員会 NHK山梨放送局 テレビ山梨 日本ネットワークサービス エフエム富士 エフエム甲府
内容	愛知県で開催した巡回展の内容を、山梨県関連の資料に入れ替え展示した。集団学童疎開、村岡花子関連の資料を展示し、山梨県の特色が表れる展示内容となった。
入場者数	6,376人(約708人/1日)



愛知展



山梨展

巡回特別企画展

3 貸出キット

全国の各市町村教育委員会や都道府県遺族会事務局のほか、「昭和館だより」の発行に併せ全国約16,000の小・中学校、高等学校にポスターとチラシを送付するなど広報に努め、更なる利用を呼びかけた。

なお、平成28年度の貸出状況は、次の通りである。

<貸出先> (貸出実施順)

(学校) 21校

相模原市立大野南中学校/さいたま市立植竹中学校/綾瀬市立綾南小学校/藤沢市立藤ヶ丘中学校/東京都立南多摩中等教育学校/越谷市立千間台小学校/練馬区立中村西小学校/高取町立たかむち小学校/八王子市立高嶺小学校/横浜市立不動丸小学校/葛飾区立宝木塚小学校/白井市立城井中学校/横浜市立新田小学校/豊橋市立杉山小学校/妙高市立妙高高原中学校/千曲市立埴生小学校/鷗友学園女子中学高等学校/東京女学館小学校/横浜市立鴨志田第一小学校/東京都北区立堀船小学校/愛知県日進市立日進西中学校

(地方自治体) 20自治体

横須賀市役所市民部市民生活課/川口市役所総務部総務課/鹿児島県日置市役所総務企画部総務課/宇都宮市立南図書館/豊橋平和教育研究委員会/八王子市総務部総務課/蕨市立旭町公民館/海老名市保健福祉部福祉総務課/埼玉県新座市役所総務部人権推進課/三鷹市企画部企画経営平和・女性・国際化推進係/千葉県匝瑳市役所総務課/台東区役所総務部/茨城県保健福祉部長寿福祉課/八潮市企画財政部 人権・男女共同参画課/高崎市鼻高町上川原自治会/大和市・大和市平和都市推進事業実行委員会/愛知県犬山市役所健康福祉部福祉課/伊奈町役場秘書広報課/東京都西多摩郡瑞穂町/千代田区国際平和・男女平等人権課

(一般団体) 13団体

全印刷局労働組合王子支部ユースネットワーク/綾瀬市遺族会/全印刷局労働組合東京支部/雲南市遺族会/全印刷局労働組合本局支部/一般財団法人山口県遺族連盟/愛川町遺族会/三重県川越町遺族会/「朝霞・平和のための戦争展」実行委員会/兵庫県豊岡市遺族会日高支部/海津市遺族会/宮崎県遺族連合会/一般財団法人「挑戦するシニア」

4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演	月	入場者
平成28年	5月	140人
	7月	144人
	9月	140人
	11月	115人
平成29年	1月	114人
	3月	144人
合計		797人

5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日：平成28年8月 4日(木) 10:00～12:30
8月 9日(火) 10:00～12:30
8月25日(木) 10:00～12:30

- 内容： ① 学芸員による展示趣旨・方法の解説
② 収蔵庫等のバックヤード見学
③ 昭和館ウェブサイト紹介
④ 貸出キットの紹介
⑤ 意見交換

参加者：8月 4日 小学校教諭3名、中学校教諭2名 計 5名
8月 9日 小学校教諭1名、大学教授1名 計 2名
8月25日 高等学校教諭2名 計 2名

6 実物資料の収集と保存

(1) 実物資料の収集

平成28年度は、「昭和12年の婚礼衣装一式」「遺児が内職をして販売した人形」等1,405点の寄贈を受け、ポスター「パラリンピック東京1964」「スタイルブック 1947冬」等338点購入を行った。

収蔵資料数は次表の通りである。(平成29年3月末現在)

寄 贈 資 料	39,096点
購 入 資 料	13,210点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄 託 資 料	485点
合 計	56,034点

(2) 実物資料の保存と補修

平成27年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約20点に対して補修を行った。

(3) 実物資料の貸出実績

平成28度における館外への資料貸出は、3件6点であった。

・呉市立美術館

「愛国いろはかるた」 他 計3点

・衆議院事務局憲政記念館

「選挙肅正絵バナシ双六」 計1点

・東京都江戸東京博物館

「女学生ヘチマ襟標準服」 他 計2点

Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

1 図書文献関係

(1) 運用管理

① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等を閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を6台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。また国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的使用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成28年度のレファレンス・サービスは391件、1日平均約1件で、特に8月の夏休み期間に多かった。レファレンスの内容は書籍の所蔵確認だけではなく、考証に関するものが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？ 昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2カ月ごとに資料の入れ替えを行

っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した愛知県、山梨県を含め6府県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に、話題になっている事柄に関連する図書などを紹介した。今年度は、ニュース関連でオバマ大統領広島訪問、建築家ル・コルビュジェ、逝去した人物（藤原てい、船村徹、さとうさとる、林京子）等、テレビや映画関連では、NHK 連続テレビ小説「とと姉ちゃん」のモデルとなった大橋鎮子や、雑誌『暮しの手帖』、映画「この世界の片隅に」等に関する資料等を取り上げた。

また、特別企画展及び資料公開コーナーの展示内容など連動した図書・雑誌の公開も行っており、「すごろく」「東京オリンピック」「戦後の洋裁とファッション」「昭和のポスター」の関連資料を紹介した。

7月23日（土）から9月4日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。今年度新たに作成したテーマは「隣組」「くらしの道具」「動物たちと戦争」で、前年度までに作成した「学童疎開」「学校生活」「空襲」「昭和20年」とあわせて配布した。

平成28年10月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「シベリア抑留を描く VOL.4 収容所の日々」に関連して、シベリア抑留関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索などさまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようにしている。

⑥ 蔵書点検

平成29年3月1日（水）から3月14日（火）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び4階書庫の開架図書を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。また、図書・雑誌の和書資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成28年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
平成28年4月	1,324	205	915
5月	1,467	211	1020
6月	1,323	181	866
7月	1,927	143	569
8月	2,604	167	598
9月	1,088	162	833
10月	978	128	681
11月	1,569	127	544
12月	2,161	93	410
平成29年1月	1,783	156	721
2月	1,904	122	556
3月	653	88	385
合計	18,781	1,783	8,098

平成28年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	138	2,136
哲学	27	8
歴史	722	178
社会科学	1,651	657
自然科学	25	187
技術・工学・工業	258	138
産業	101	51
芸術	137	719
言語	13	1
文学	742	53
合計	3,814	4,128

- ・図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌が含まれる。
- ・図書・雑誌以外では、地図156点が利用された。

(2) データ管理

① 収蔵図書データの管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成28年度は2,280冊の書誌データの入力と装備を行った。

② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成28年度は2,280件の目次データ入力を行った。

(3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、平成28年度は5冊の製本及び合本をし、184冊の破損本を修理した。

なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

(4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。

平成28年度は、日本図書館協会主催の第102回全国図書館大会（平成28年10月15日～16日開催：於 青山学院大学青山キャンパス）などに参加し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末は全部で20台設置されており、内訳は以下のとおりである。

多人数で同時に利用可能な団体専用端末が2台、当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末が1台、国立国会図書館が提供する約5万の歴史的音源、「にいがたMALUI連携地域データベースを利用できる専用端末が1台、映像・音響資料を検索する端末が12台となっている。

そのほか4台は、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来

事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナー（平成28年度は流行歌や現代映画に使われた名曲、といったテーマで紹介した）となっている。

また入口モニターでは、今年大ヒットした映画「この世界の片隅に」に関連した戦後の広島と呉の映像を紹介した。

3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成28年度において203作品を上映し、多くの来館者から好評を得ている。

10月4日（火）から10月10日（月・祝）には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館において、「シベリア抑留を描く VOL.4 収容所の日々」を開催したのにもない、シベリア抑留者の帰国関係のニュースが盛り込まれているニュース映画を特集して上映した。

4 収蔵資料

（1）図書資料の収蔵状況

平成28年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（平成29年3月末現在）

国民生活関係図書	57,560冊
戦争に関する基本的図書	19,682冊
独自資料	35,980冊
その他基本図書	11,436冊
合計	124,658冊

<平成28年度の主な受入資料の内訳>

- | | |
|-------------------------|--------|
| ○ 国民生活関係 | 2,003冊 |
| ・当時刊行された雑誌類や生活体験記等 | |
| 『70年目の証言 あの戦争を語る』 | |
| 『あの日の空 とやま戦後70年』 | |
| 『ミドリ楽団物語 戦火を潜り抜けた児童音楽隊』 | |
| 『東京戦後地図 ヤミ市跡を歩く』等 | |

- | | |
|--------------------------------|------|
| ○ 戦争に関する基本的図書 | 618冊 |
| ・太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等 | |
| 『100人が語る戦争とくらし』 | |
| 『明野陸軍飛行学校天竜分教所』 | |
| 『太平洋戦争期の物資動員計画』 | |
| 『東京大学第二工学部 なぜ、9年間で消えたのか』等 | |
| ○ その他 | 43冊 |
| ・寄贈を受けた各類似施設の刊行物等 | |
| 『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等 | |
| ・定期購読誌 | |
| 『文藝春秋』『中央公論』『新潮45』『丸』等 | |

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。平成28年度は、米国国立公文書館の調査により入手した占領下日本の写真・映像、国立国会図書館憲政資料室で所蔵している「パオリーノ氏旧蔵カラースライド」の写真についてデータ提供を受ける等して、検索システムでのデータ提供に向けて整理作業を行っている。

<平成28年度の主な受入資料の内訳>

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ○ 資料の購入 | |
| ・記録写真 | |
| 米国国立公文書館所蔵 | 98枚 |
| ハワイ大学マノア校日本研究センター | 83枚 |
| ・記録映像 | |
| 日本ニュース | 46本 |
| 米国国立公文書館所蔵 | 32本 |
| ○ 資料の寄贈 | |
| ・記録写真 | |
| 国立国会図書館憲政資料室所蔵カラースライド | 304枚(データ提供) |
| 吉川虎雄氏所蔵写真 | 1,516枚 |
| クボタ写真館(長野県)所蔵 | 48枚 |
| ・記録フィルム | |
| 渡邊豊貞氏撮影 | 104作品 |
| ・音響資料 | 79点 |

<平成29年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	20,938件
動画資料	2,902件
音響資料	13,128件
計	36,968件

Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内132カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

1 運用管理

(1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成28年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は401,916件、月平均約33,490件で、多くの来館者に利用されている。

	写 真	映 像	音 響	図 書	雑 誌	個別 DB	月別合計
平成28年4月	16,386	5,767	4,035	2,726	2,396	189	31,499
5月	17,305	6,303	4,224	2,859	1,985	260	32,936
6月	14,802	6,601	4,374	2,871	2,631	197	31,476
7月	18,212	7,523	3,692	2,355	1,395	271	33,448
8月	29,961	9,856	3,860	2,801	1,708	289	48,475
9月	16,544	5,520	2,427	3,193	2,553	155	30,392
10月	19,994	4,907	3,502	2,114	1,565	163	32,245
11月	18,701	6,464	2,148	2,143	1,564	297	31,317
12月	20,131	8,287	2,780	3,320	1,421	318	36,257
平成29年1月	20,055	7,747	2,984	2,564	1,249	239	34,838
2月	18,901	7,647	2,727	2,380	1,026	293	32,974
3月	13,915	6,292	2,972	1,848	931	101	26,059
合 計	224,907	82,914	39,725	31,174	20,424	2,772	401,916

(2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合デー

データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。今年度は『毎日新聞』『少年倶楽部』『少女倶楽部』『婦人倶楽部』『主婦之友』『婦人之友』『富士』の画像データ化を行った。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

（3）ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

平成28年度のアクセス数は次のとおりであった。

・平成28年度	176,815件
・平成28年度月間平均	14,734件
・開館時からの累計	2,579,323件

内「キッズナビ」へのアクセス数

・平成28年度	10,566件
・平成28年度月間平均	880件
・平成18年（導入時）からの累計	179,914件

(4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

(5) Wi-Fi導入

図書室、映像・音響室での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービスを向上させるために試験的に開始した。

2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年引き続き実施した。

戦没者妻や遺児による戦没者への遺族の想いや、戦中・戦後の苦しかった生活体験などを中心に、疎開先での生活、母子で外地から引揚げてきた体験など、35名の証言（37作品）の収録を行った。

タイトル	証言者
家族を奪った空襲 悲劇は忘れない	春成 幸男
戦没者遺児の追憶	高木 道雄
技術者としての戦争と戦後の会社経営	吉澤 功
戦時下の結婚と出産	吉澤 弥生
疎開先、新井町での思い出	月村 泰之 井上 實 山本 勇蔵
3度の空襲と食糧難	辻 彌太郎
東京大空襲、言問橋の惨状	辻 壽恵子
焼け残ったガード下からの出発	永谷 浩司
九段での暮らしと軍隊生活	信太 衛
戦後の東京を写真に収めて	持田 晃
戦災孤児としての戦中・戦後の苦労	海老名 香葉子
家族の思い出と一人での疎開	海老名 香葉子
疎開先で兄から聞いた東京大空襲の惨状	海老名 香葉子
満州での青春時代、教員としての戦後	天間 松雄
日赤看護師が見た戦中・戦後	田代 苗美
夫に見守られ、手芸で生きる	熊崎 つや
早く稼げる人間になりたかった 遺児の青春	市原 良幸
満州での暮らしと父・母への想い	森崎 孝子
母と子の戦中・戦後の苦難	野見山 シズ子
父の戦死と炭鉱の暮らし	吉田 廣志
博多大空襲と戦後の暮らし	井上 洋子
縁故疎開で東京から福岡へ	品川 洋子
戦後の混乱と大学進学	品川 洋子

空襲体験と戦後の暮らし	山本 正勝
阪急電鉄駅員が体験した大阪大空襲	石井 富恵
すべてを焼き尽くした大阪大空襲	竹立 威三雄
両親に助けられ生き抜いた戦後	竹立 威三雄
大阪と神戸、2度の空襲をのりこえて	岡田 匠
空襲の体験、戦後に夫を亡くした苦労	上村 祥子
出水に来てからの暮らし	郡山 博子
両親の郷里鹿児島への疎開、戦後も待った父の帰り	植松 照草
亡き父にあこがれ警察官に	山元 正光
機銃掃射で負傷した中学生	小向得 庇
息子を育てる責任を負って	福川 静子
15歳の満蒙開拓青少年義勇軍	隅田 藤市
この子が大きくなるまでは…	山崎 花美
父の面影をもとめて	坂本 功

3 海外資料調査の実施

アメリカフロリダ州立大学の第二次世界大戦と人類の経験研究所、マッカーサー記念館、米国国立公文書館において資料調査を実施した。

フロリダ州立大学では、研究所が所蔵するオリバー・L・オースティンの写真スライドコレクションをはじめ、その他の写真コレクション及び実物資料等の所在を確認した。

マッカーサー記念館においては、これまでの調査で所在を確認していたカルメン・ジョンソンコレクション、ベジビーコレクション等について未確認部分の調査を進めた。また、米国国立公文書館では、新規の写真コレクション、海兵隊撮影映像についての調査を行い、入手に向けて資料選定等を行った。

今後、常設展示室などでの展示や資料閲覧に活用可能な資料の調査を実施・入手し、将来特別企画展を開催することを検討していく。

IV 啓発広報等事業

1 広報活動

(1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」26号を6月下旬から7月上旬に1都3県の小学校（5年生）来館校、中学校（2年生）来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5年生）と1都3県の小学校社会科研究協議会、中学校社会科教育研究会に発送した。更に、校長会等に参加をして事業の説明を行い来館の促進を図った。

なお、全国の小・中・中等教育校及び来館団体、来館高等学校、小学校社会科研究協議会、中学校社会科教育研究会に対しては11月に「昭和館だより」27号、リーフレットを送付し当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

その他に、今年度巡回特別企画展の開催県について、6月に甲府市の小・中学校5校と名古屋市の小・中学校3校及び校長会を訪問し、巡回特別企画展開催について説明を行うとともに広報に努めた。

(2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めた。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。さらに、毎月発行される東京メトロ「沿線だより」、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかどく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

(3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」26号、27号を、平成28年6月と平成28年11月に発行し、(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業

① 語り部育成事業

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を後世に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を育成する事業を始めることとした。

研修生を募ったところ54名が応募し、選考の結果選ばれた研修生11名を対象にして研修を実施している。

② 事業の実施状況

ア 平成28年10月に開講式及び第1回研修を実施し、以降、月1回のペースで研修を行い、これまでに6回の研修を実施している。

イ 研修予定

- * 1～2年目：語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等のテーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等
- * 2～3年目：語り部実演・発表によるスキルアップ等

③ 研修終了後は、昭和館から委嘱をした方には昭和館の語り部として常設展示室の解説や講話等活動をしていただく予定。

(5) 子ども霞が関見学デー

文部科学省主催で、平成28年7月27日(水)、28日(木)の2日間、各省庁を会場として開催された。昭和館は、厚生労働省社会・援護局の企画として「知ってる?昭和のくらし～昭和のくらしを見てみよう、体験してみよう～」のタイトルで、貸出キットや雑誌資料、写真映像資料による出張展示を行い、ライダー工作の体験も行った。しょうけい館と同室での実施となり、相互協力を行った。また、文部科学省会場でも当館紹介のポスター展示も実施した。

- ・開催期間 平成28年7月27日(水)～28日(木)

- ・会 場 厚生労働省 講堂
- ・来場者数 876人

(6) 第15回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小・中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。2校の中学生、(1～2年)、6校の小学校6年生と、個人4名(小2～小6)の合計230作品の応募があった。

審査の結果、千代田区立麹町小学校2年生の増井 航平さんの作品が厚生労働大臣賞(別掲)に、葛飾区立新宿小学校6年生の高原 陸さん及び高崎市立鼻高小学校6年生の須藤 海さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

(7) 第9回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計120作品の応募があった。

審査の結果、浦和麗明高等学校 上戸 杏さんの作品が最優秀賞に(別掲)、優秀賞(別掲)に7作品、佳作に12作品が選ばれた。

昭和館や巡回特別企画展を見学して思ったこと、調べたことなどについて自由に書いてください。

昭和館 見学作文コンクール

第15回

平成28年 平成29年
募集期間 7月1日 から 8月15日 まで

応募 小・中学生を対象に、クラス単位か個人で応募してください。

応募様式 400字詰原稿用紙2～3枚の作文様式
応募作品は返却しません。あらかじめ作品をコピーして、原本をご持参ください。

選考方法 一次選考では全作品を審査し、通過作品は二次選考で審査委員権数によって審査します。

各賞の発表は本人(学校)に通知後、昭和館ホームページで行います。賞状・副賞は郵送します。優秀作品は昭和館ホームページに掲載する機会がありますので、あらかじめご了承ください。

個人賞 増井航平(小学生)、電子書籍(1名)、電子書籍(1名)、電子書籍(1名)

優秀賞 デジタルフォトフレーム(6名) 著作「色んなつ」(2名)

審査員特別賞・奨励賞(2名) 奨励賞「英和館クリアファイル」(全員)

昭和館 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL: 03-3222-2577 FAX: 03-3222-2575 ホームページ http://www.showakan.jp

作文コンクール

第9回 昭和館 中学生・高校生ポスターコンクール

募集テーマ
あなたが感じた戦中・戦後の昭和の暮らし
昭和館を見学して、ポスターにしてみよう。

詳細は裏面をご覧ください▶

募集期間
平成29年1月13日(金)まで

※消印有効

最優秀賞 北郷 七穂さん
優秀賞 田中 早弥さん

昭和館 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
TEL: 03-3222-2577 FAX: 03-3222-2575
http://www.showakan.jp

昭和館は戦中・戦後の国民の暮らしを次の世代に伝える国立の施設です。

ポスターコンクール

2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第15号を平成29年3月に刊行した。(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

『昭和館のくらし研究』第15号 目次

口 絵

占領期における遭遇と記録

—アメリカ国立公文書館所蔵の映像群をどう捉えるか—・・・原田 健一

総力戦体制化における新聞共販制度

—日本新聞聯盟業務委員会の役割を中心に—・・・西澤 梨花

日本イタリア文化交流のかけ橋として

—ジュリアナ・ストラミジョーリの事蹟—・・・渡邊 一弘

学校教練における教育方針の変遷・

—1930年代以降における教授要目改正を中心に—・・・吉葉 愛

昭和館所蔵 学童疎開関係資料(手記・体験談)目録(二)

—東京以外—・・・佐藤 綾子



昭和のくらし研究第15号

3 展示資料の貸出

- 「宮崎特攻基地資料展」
 - ・開催期間 平成28年7月6日～7月10日
 - ・会場 イオンモール宮崎
 - ・貸出資料 写真画像1点

- 「世田谷区立平和資料館特別展・巡回展」
 - ・開催期間 平成28年8月1日～31日
 - ・会場 世田谷区教育センター1階
 - ・貸出資料 写真画像8点

- 「萩原町の人々が語る戦争展」(愛知県一宮市)
 - ・開催期間 平成28年8月20日～23日
 - ・会場 萩原公民館 図書室
 - ・貸出資料 写真画像1点

4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

昭和館運営専門委員会 委員名簿

(平成29年3月31日現在。50音順、敬称略)

委員長	宮 脇 岑 生	(元国立国会図書館副館長)
委員	赤 木 完 爾	(慶應義塾大学教授)
〃	上 野 憲 示	(文星芸術大学学長)
〃	加 納 正 弘	(元厚生省大臣官房審議官)
〃	北 原 進	(品川区立品川歴史館館長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学教授)
〃	月 岡 正 明	(世田谷区立等々力小学校長)
〃	花 輪 隆 昭	(元昭和館館長)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに14回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成29年3月31日現在。順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会相談役)
〃	池 田 維	(公益財団法人交流協会顧問)
〃	多 田 宏	(公益財団法人中国残留孤児援護基金前理事長)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科特任教授)
〃	上安平 洌 子	(株式会社NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	田 中 繁 広	(文京区立第一中学校主幹教諭)

6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、6月7日（火）～10日（金）まで京華商業高等学校1名、6月14日（火）～16日（木）まで都立工芸高等学校1名、7月26日（火）～29（金）まで都立大島高等学校1名、8月23日（火）～25日（木）まで東洋高等学校2名、9月13日（火）～16日（金）まで都立神津高等学校1名、を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

7 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

(1) 関係施設等連携会議の開催

第10回会議を6月17日(金)に開催

第11回会議を3月3日(金)に開催

(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」の実施

開催期間：平成28年7月16日(土)～8月31日(水)

参加者数：3,914人

(3) 移動教室「シベリア抑留を描く—VOL.4収容所の日々」における連携

開催期間：平成28年10月4日(火)～10月10日(月・祝)

主催：平和祈念展示資料館

協力：昭和館、しょうけい館

場所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

(4) 巡回特別企画展の相互協力

・愛知県における巡回特別企画展においては、名古屋市内で会場は異なるものの同時期(5日間)に開催されたしょうけい館、平和祈念展示資料館との連携を行った。

・山梨県においても、ブースを設けて、しょうけい館、平和祈念展示資料館のポスターを掲示する等の連携を図った。

V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1 特別企画展

「“隣組”ってなんですか？～助けられたり助けたり～」

昭和 15 年（1940）9 月、内務省により町内会・部落会の整備拡充がはかれるとともに、その下位組織として隣組（隣保班）が組織化された。

隣組は行政の指示により、配給切符の割当や防空活動、資源回収などといった活動を行い、定期的に「常会」が開かれ組内の意思疎通の機会を設けるなど、戦時体制下での国民生活の基盤となる活動を行っていた。

一方で、隣組は組員同士の監視、思想の統制などといった、ひとりひとりの生活を窮屈に感じさせる側面も併せもっていた。

本展では、実物資料、音響資料などを通して、戦時下の隣組の活動を紹介した。

開催期間：平成28年7月23日（土）～9月4日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

- I 隣組のはじまり
- II 隣組のさまざまな活動
回覧板／常会／配給／資源回収／
出征軍人や遺族・留守家族への援護／
防空活動／子ども隣組
- III 隣組の解体と戦後の部落会・町内会

来場者数：10,802人
(約277人／1日)

・イベント「隣組すごろく」を作ろう!>

期 日：8月7日（日）

会 場：3階研修室

参加者数：8人

「学芸員による展示解説」

特別企画展会場

期 日：8月7日（日）28日（日）

会 場：特別企画展会場

参加者数：73人

昭和館特別企画展

となりぐみ
隣組
つてなんですか?
～助けられたり助けたり～

国民歌謡「隣組」の
歌詞が朝られた湯呑

国産歌謡「隣組」の
昭和15年(1940)10月
藤本四八(GPS)撮影

平成28年
7.23(土) ▶ 9.4(日)

入場
無料

会 場：昭和館3階 特別企画展会場
開館時間：10:00 ▶ 17:30 (入館は17:00まで)
休 館 日：毎週月曜日(8月15日は開館)

隣組回覧板

〒100-0074 東京都千代田区A段南1-6-1 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
●7-6階には常設展示室(高校生以上有料)があります。●団体予約承ります。
電車ご利用の場合
地下鉄丸の内線千代田駅より徒歩1分(東西線・半蔵門線・常磐線新大塚駅より徒歩約10分)
車をご利用の場合
前橋高尾駅特設バス停から徒歩1分(A段下交差点) 有料駐車場有(30分200円・普通乗用車のみ)

2 特別企画展

「ポスターに描かれた昭和～高橋春人の仕事」

高橋春人（たかはしはると）は、戦中・戦後に多くの公共ポスターを手がけた、黎明期の公共広報デザインの第一人者である。昭和39年(1964)の東京パラリンピックでは、企画委員・広報視覚媒体の制作を担当し、招致ポスター等も手掛けた。

昭和館には遺族からポスター等160点が寄贈されており、本展ではこのコレクションを中心に、写真や関連資料を併せて紹介し、戦中から40年代に至る高橋の足跡をたどった。

開催期間：平成29年3月11日（土）～5月7日（日）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

<展示構成>

I 高橋春人の軌跡

略歴／1964パラリンピック

II 戦中期

初期の創作活動／
日本宣伝協会会員として

III 終戦後

焼け跡のスケッチ／同胞援護活動／
その他

IV 公共広報デザイン活動

共同募金・赤十字募金／
日本赤十字社／
老人の日・老人週間／
公共作品／商業広告



来場者数：44,979人
(約899人/日)

<イベント>

1 昭和体験イベント

大道芸、チンドン屋の実演、ポン菓子製造、昔の遊びなどを中心としたイベントを実施した。

期 日：3月25日（土）、4月1日（土）、2日（日）、
4月8日（土）、9日（日）、5月3日（水）～5日（金）

会 場：2階体験ひろば／1階ニュースシアター

参加者数：5,438名

2 展示解説

学芸員による展示解説

期 日：3月25日（土）・4月22日（土）

会 場：3階 特別企画展会場

参加者数：59人

3 写真展

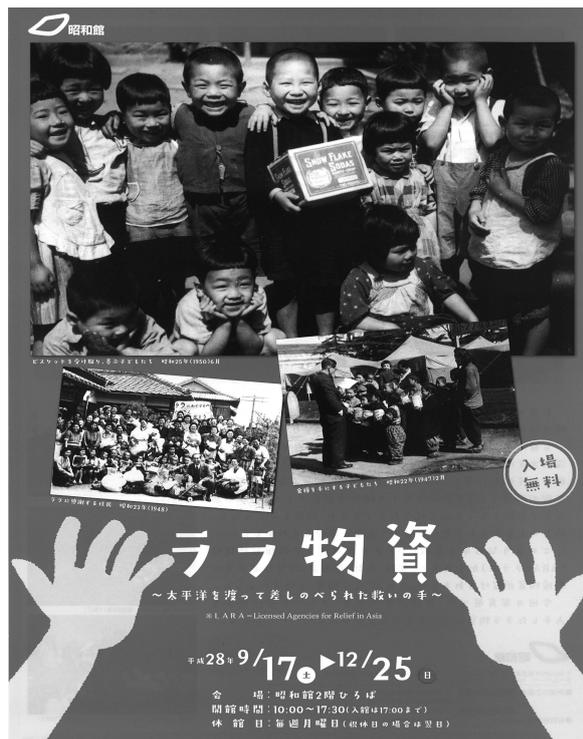
「ララ物資～太平洋を渡って差しのべられた救いの手～」

開催期間：平成28年9月17日（土）から12月25日（日）

会 場：昭和館2階広場

内 容：アメリカ・フレンズ奉仕団より入手したララ物資関連の写真を中心に展示した。

期間中入場者数：20,549人
（約239人/1日）



4 写真展

「桜、誘われ」

開催期間：平成29年3月18日（土）から4月16日（日）

会 場：昭和館2階広場

展示内容：戦前から戦後の各地の桜と花見をする人々の表情を紹介した。春をテーマとしたSPレコードの音源を会場で放送した。

期間中入場者数：16,147人
（約621人/1日）
（内、平成28年度は、
3,553人）



5 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成28年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回数	テーマ	期間
第60回	九段界隈の移り変わり	平成28年1月26日 ～5月8日
第61回	東京オリンピック	平成28年5月10日 ～8月28日
第62回	新収蔵資料 F・D・ルーズベルト 大統領図書館所蔵写真	平成28年8月30日 ～11月13日
第63回	母の思い、子どものあこがれ ～戦後雑誌にみる子どもの ファッション～	平成28年11月15日 ～平成29年4月2日

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数

昭和館入場者状況の推移(平成11年度～28年度)

1

	常設展示室							映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースコーナー	総計
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっとバス	無料	合計						
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612	
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673	
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084	
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460	
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422	
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459	
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386	
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215	
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724	
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151	
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579	
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092	
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319	
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244	
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295	
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311	
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056	
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600	
合計	530,853	52,816	449,525	16,111	95,945	1,145,250	596,129	351,291	1,019,921	1,951,091	5,063,682	

2 平成28年度利用者実績

(単位：人)

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成28年 4月	3,346	1,901	1,324	13,902	36,716	57,189	4/1 (3/19~4/17) 写真展期間 4/1 (3/19~) 特別企画展期間
5月	4,167	2,608	1,467	9,051	2,695	19,988	~5/8 特別企画展期間 5/22 紙芝居定期上演会
6月	4,149	2,159	1,323	7,699	0	15,330	
7月	4,146	2,344	1,927	7,846	3,101	19,364	7/16~ 3館スタンプラリー 7/23~ 特別企画展期間 7/24 紙芝居定期上演会
8月	6,435	3,157	2,604	12,312	7,796	32,304	~8/31 3館スタンプラリー 特別企画展期間
9月	3,787	1,815	1,088	8,479	3,129	18,298	~9/4 特別企画展期間 9/17~ 写真展期間 9/25 紙芝居定期上演会
10月	3,770	1,710	978	11,440	9,965	27,863	10/23~10/30 写真展期間 愛知県巡回特別企画展期間
11月	7,409	2,721	1,569	18,381	6,924	37,004	11/27 写真展期間 11/30~ 紙芝居定期上演会 山梨県巡回特別企画展期間
12月	9,391	4,706	2,161	20,986	13,290	50,534	~12/8 山梨県巡回特別企画展期間 ~12/25 写真展期間
平成29年 1月	6,714	2,998	1,783	9,447	114	21,056	1/22 紙芝居定期上演会
2月	8,605	3,060	1,904	11,804	0	25,373	
3月	3,357	1,828	653	11,979	11,480	29,297	3/18~4/16 写真展期間 3/11~5/7 特別企画展期間 3/26 紙芝居定期上演会
合計	65,276	31,007	18,781	143,326	95,210	353,600	

3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
65,276人	有料 27,109人	高・大学生	3,264人	5.0
		一般	23,845人	36.5
	無料 38,167人	小・中学生	33,706人	51.6
		視察者等	2,699人	4.1
		心身障害者	1,383人	2.1
		未就学児	379人	0.6

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
678校	小学校	353校	52.0
	中学校	245校	36.1
	高校	31校	4.6
	専門学校	8校	0.1
	大学	41校	6.0

4 来館団体御芳名

(敬称略)

月 日	団 体 名	人 数
5月15日	苫小牧市立清翔中学校3年生	243名
5月17日	横浜市立南中学校2年生	124名
5月19日	杉並区立中瀬中学校2年生	105名
6月3日	横浜市立もえぎ野中学校2年生	162名
"	平塚市立大住中学校2年生	112名
6月7日	川崎市立はるひ野中学校2年生	146名
6月8日	相模原市立大野南中学校2年生	230名
"	名張市立南中学校3年生	101名
6月9日	橋本市立紀見東中学校3年生	116名
"	加西市立加西中学校3年生	105名
6月14日	平群町立平群中学校3年生	154名
7月12日	河内長野市加賀田中学校3年生	136名
8月15日	京都府遺族会	156名
8月31日	川崎市立南河原中学校2年生	110名
9月13日	鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校6年生	175名
9月14日	観音寺市立大野原中学校3年生	131名
"	名張市立桔梗が丘中学校3年生	126名
9月17日	立川女子高等学校2年生	146名
9月27日	豊島区立池袋中学校1年生	90名
9月30日	小山市立羽川小学校6年生	121名
10月7日	世田谷区立桜丘中学校2年生	114名
10月20日	新宿区立早稲田小学校6年生	94名
11月1日	板橋区立志村第六小学校6年生	133名
11月4日	小平市立小平第七小学校6年生	105名
11月8日	江東区立第三砂町小学校6年生	106名
"	江戸川区立宇喜田小学校6年生	100名
11月10日	伊奈町立小室小学校6年生	147名
11月11日	桐蔭学園小学部6年生	155名
11月15日	世田谷区立弦巻小学校6年生	145名
11月15日	江東区立第一亀戸小学校6年生	93名
11月17日	葛飾区立二上小学校6年生	107名
11月18日	大妻中学校2年生	126名
"	江東区立第三大島小学校6年生	92名
"	青梅市立第五小学校6年生	90名
11月22日	板橋区立志村第一小学校6年生	110名
"	熊谷市立熊谷西小学校6年生	104名
11月24日	宮田村立宮田小学校6年生	105名
"	成田市立吾妻小学校6年生	104名
11月25日	江東区立小名木川小学校6年生	107名
"	世田谷区立京西小学校6年生	102名
"	調布市立調和小学校6年生	119名
"	朝霞市立朝霞第一小学校6年生	120名
"	船橋市立前原小学校6年生	158名
"	江戸川区立南葛西第二小学校6年生	98名
12月2日	和光市立新倉小学校6年生	102名
"	国分寺市立第三小学校6年生	132名
"	足立区立東伊興小学校6年生	93名
"	府中市立白糸台小学校6年生	90名
12月6日	江戸川区立鎌田小学校6年生	118名
"	武蔵野市立大野田小学校6年生	121名
"	横浜市立日吉台中学校2年生	317名
"	草加市立新田小学校6年生	96名
"	荒川区立赤土小学校6年生	92名
"	昭島市立拝島第三小学校6年生	93名
12月7日	静岡市立長田東小学校6年生	153名
12月8日	葛飾区立幸田小学校6年生	117名
"	板橋区立成増小学校6年生	93名
12月9日	千葉大学教育学部附属小学校6年生	131名
"	江戸川区立第七葛西小学校6年生	91名

月 日	団 体 名	人 数
12月9日	中央区立佃中学校2年生	92名
12月13日	船橋市立葛飾小学校6年生	258名
"	江戸川区立南葛西小学校6年生	128名
"	日野市立南平小学校6年生	107名
"	江戸川区立東葛西小学校6年生	132名
"	荒川区立汐入東小学校6年生	155名
12月15日	小田原市立三の丸小学校6年生	96名
"	品川区立第三日野小学校6年生	91名
12月16日	品川区立第二延山小学校6年生	113名
"	江東区立砂町小学校6年生	96名
12月20日	さいたま市立沼影小学校6年生	187名
"	練馬区立中村小学校6年生	136名
"	足立区立淵江第一小学校6年生	116名
"	練馬区立大泉東小学校6年生	129名
12月22日	目黒区立東山小学校6年生	164名
"	足立区立栗原北小学校6年生	102名
1月12日	杉並区立高井戸第二小学校6年生	113名
"	横浜市立洋光台第一小学校6年生	109名
1月13日	船橋市立宮本小学校6年生	187名
"	印西市立滝野小学校6年生	99名
"	江東区立南陽小学校6年生	116名
"	足立区立弥生小学校6年生	107名
1月17日	八王子市立船田小学校6年生	90名
"	日野市立日野第一小学校6年生	90名
"	川崎市立菅小学校6年生	152名
1月19日	カリタス小学校6年生	107名
1月25日	成田市立成田小学校6年生	124名
1月26日	練馬区立田柄第二小学校6年生	124名
1月27日	練馬区立石神井南中学校1年生	92名
"	袖ヶ浦市立長浦小学校6年生	97名
"	江戸川区立第二葛西小学校6年生	164名
1月31日	足立区立古千谷小学校6年生	102名
2月1日	白百合学園小学校4年生	119名
2月2日	葛飾区立半田小学校6年生	106名
"	市川市立南新浜小学校6年生	109名
"	江東区立第三亀戸中学校2年生	101名
2月8日	山梨県笛吹市遺族会	104名
2月10日	大田区立蒲田小学校6年生	92名
"	江東区立越中島小学校6年生	100名
"	浦安市立南小学校6年生	165名
"	小金井市立小金井第三小学校5年生	122名
2月14日	府中市立府中第六中学校1年生	127名
"	瑞穂町立瑞穂第四小学校6年生	91名
"	練馬区立石神井小学校6年生	91名
"	練馬区立関町小学校6年生	115名
2月15日	白百合学園小学校3年生	115名
"	江戸川区立小松川第二小学校6年生	145名
2月16日	板橋区立赤塚第三中学校2年生	178名
"	小田原市立千代小学校6年生	91名
2月17日	川崎市立幸町小学校6年生	95名
"	府中市立四谷小学校6年生	122名
2月21日	和光市立第五小学校6年生	116名
2月24日	市川市立妙典小学校6年生	125名
"	北区立西浮間小学校6年生	120名
"	清泉小学校6年生	111名
2月28日	横浜市立川上北小学校6年生	150名
3月2日	さいたま市立大宮小学校6年生	100名
3月3日	横浜市立都築小学校6年生	137名
3月10日	暁星小学校3年生	124名

※紙面の都合により、90名以上で来館した団体のみを掲載しております。

5 第15回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

ぼくのつたえたいこと

千代田区立麴町小学校 2年 増井 航平

ぼくのつたえたいことは、いのちの大切さです。

せんそうで亡くなった人や、せんそうに行った人の気持ちを考えて、みんなに伝えたくになりました。

ぼくはおばあちゃんに「一しょにしょう和かんへ行こう」と、さそいました。でもおばあちゃんは「思い出すのがいやだから、行かないよ。」と、言いました。おばあちゃんは、せんそうの時、四さいでした。ぼくはその時おばあちゃんの気持ちがよくわかりませんでした。

ぼくは、友だちとお母さんと一しょにしょう和かんに行きました。

しょう和かんにつくと、そこにはせんそうのしゃしんやものが、おいてありました。

ぼくは、ぼう空ごうの体けんに入りました。ぼう空ごうの中はとてもくらくてせまかったです。ぼくだんの音がひびいてこわかったです。みんなで力を合わせてぼうくうごうを作ったそうです。ぼう空ごうを作るのも大へんだと思いました。

せんそう中は、食べるものもなく水もなかったそうです。小さな子がバケツで、川やい戸から水をはこんでいたそうです。い戸の水くみ体けんをしました。友だちと二人でやっても大へんでした。

今から七十年前、せんそうが終わりました。せんそうなんかしなければいいのに、人はなぜせんそうをするのだろうと思いました。ぼくと同じくらいの子どもが、赤ちゃんの子もりをして、小さないのちをまもっていました。しょう和かんへ行って、おばあちゃんの気持ちがわかる気がしました。

ぼくはその夜、ふとんの中でなきました。どうしてかというともしせんそうになったら大切な友だちやお母さん、みんないなくなってしまうかもしれないと考えました。それをくりかえして考えていたらないちゃいました。

えい遠のいのちがあればいいのに。

せかいは平和にならなければいけないのです。ぼくは大人になったら、何ができるのだろう。

6 第9回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介 <入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞
浦和麗明高等学校
上戸 杏
子供達と戦闘機



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
狛 花音
昭和の音楽鑑賞



優秀賞
福岡県立折尾高等学校
河村 朱香
昭和の風景



優秀賞
あいち造形デザイン専門学校高等課程
渡邊 樹
昭和の風景



優秀賞
福岡県立折尾高等学校
長尾 水晶
昭和の生活、室内



優秀賞
福岡県立朝倉高等学校
松田 亮平
母と子の絆



優秀賞
岐阜県立岐阜総合学園高等学校
栗田 野明
昭和の商店街



優秀賞
富山第一高等学校
佐藤 芹奈
昭和の町なみ

7 施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもと、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

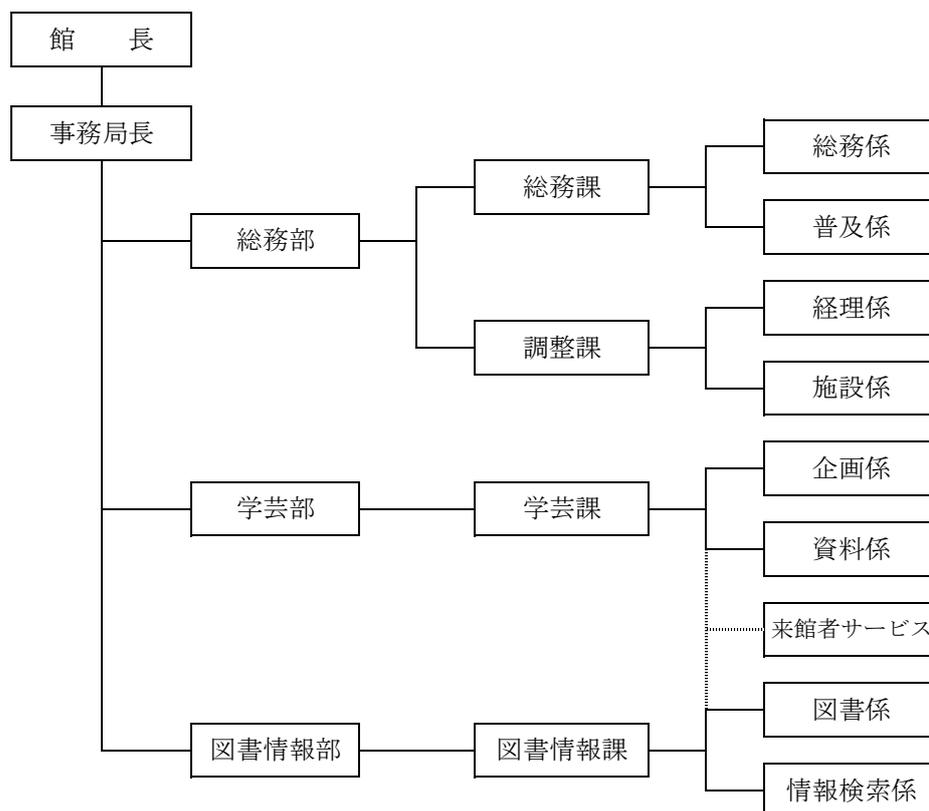
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施 設

面 積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備 考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組 織



8 平成28年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

[個人]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	志田泰範
東京都	石橋佐知子
〃	今井啓雄
〃	江川邦江
〃	江本真弓
〃	大竹晟介
〃	岡田安代
〃	小澤由紀子
〃	笠原明弘
〃	金田正也
〃	川邊洋子
〃	北野充繪
〃	小林雅代
〃	小松要子
〃	昆陽一
〃	佐々木早百合
〃	重野吉治
〃	篠崎喜美子
〃	高須景子
〃	高橋加代子
〃	高橋正
〃	竹本喜美子
〃	地曳裕子
〃	仁木美智子
〃	西守
〃	新田剛
〃	福島厚太郎
〃	増子眞裕美
〃	町田ルミ子
〃	松本和子
〃	松本陽子
〃	丸昭子
〃	丸征司
〃	村田恒久
〃	八木隆明
〃	安岡由佳梨
〃	山田晴久

都道府県	寄贈者名
東京都	湯浅済子
神奈川県	太田方子
〃	坂井多美子
〃	清水妙子
〃	中島孝
〃	野口英行
〃	山下明子
千葉県	一ノ瀬文雄
〃	遠藤益夫
〃	蒲池廉一郎
〃	蒲生美津子
〃	小早川いく子
〃	柴敏子
〃	高辻啓
埼玉県	上梶謙吉
〃	上田麗子
〃	刑部浩
〃	斎藤義雄
〃	佐藤洋子
〃	関昭義
〃	時田ノブ子
〃	保坂知永
山梨県	石原タツミ
長野県	坂口浩
富山県	浦田行雄
〃	小松良治
福井県	九ノ里俊一
愛知県	青木健治
〃	宇佐美京
〃	郷司武彦
〃	佐藤典子
〃	森本宏
岐阜県	市原良幸
三重県	河瀬照代
岡山県	羽根岡伝治
高知県	橋田陽一
海外	クロフォード典子

図書資料寄贈者

[団体]

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市立博物館
〃	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
〃	北海道博物館
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
〃	八戸市博物館
岩手県	岩手県立博物館
〃	盛岡市先人記念館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
秋田県	秋田県立博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	白河市歴史民俗資料館
〃	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	所沢市生涯学習推進センター
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	君津市八重原公民館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
東京都	JCIIフォトサロン
〃	NHK放送博物館
〃	荒川ふるさと文化館
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	一般財団法人古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館
〃	英霊にこたえる会中央本部
〃	大田区立郷土博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	葛飾区郷土と天文の博物館
〃	株式会社原書房
〃	北区飛鳥山博物館
〃	宮内庁書陵部
〃	くにたち郷土文化館
〃	慶應義塾福澤研究センター
〃	公益財団法人 板橋区産業振興公社
〃	公益財団法人 笹川スポーツ財団
〃	公益財団法人 東京都慰霊協会
〃	公益財団法人 東京都人権啓発センター
〃	公益財団法人 野球殿堂博物館
〃	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〃	公益財団法人 海原会
〃	公益財団法人 偕行社
〃	公益財団法人 多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
〃	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〃	國學院大學研究開発推進機構学術資料館神道資料館部門
〃	国民みらい (株式会社国民みらい出版)

都道府県	寄贈者名
東京都	国立公文書館
〃	公益財団法人 水交會
〃	公益財団法人 政治経済研究所 東京大空襲・戦災資料センター
〃	公益財団法人 中国残留孤児援護基金
〃	一般社団法人 日本郷友連盟
〃	公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 世界遺産・国際教育グループ
〃	週刊朝日編集部
〃	衆議院憲政記念館
〃	しょうけい館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	杉並区立郷土博物館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	世田谷美術館
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	学童疎開資料センター (旧「全国疎開学童連絡協議会」)
〃	台東区立下町風俗資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	荒川区地域文化スポーツ部生涯学習課
〃	中央区立郷土天文館
〃	調布市郷土博物館
〃	調布市役所生活文化スポーツ部文化振興課
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立日比谷図書文化館
〃	通信文化協会
〃	帝国データバンク史料館
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京国立近代美術館フィルムセンター
〃	東京都公文書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都博物館協議会
〃	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
〃	豊島区立郷土資料館
〃	日本経済評論社
〃	日本カメラ博物館
〃	練馬区立石神井公園ふるさと文化館
〃	白銅鞮画廊
〃	八王子市市史編さん室
〃	東大原小学校同窓会
〃	福生市総務部総務課
〃	文京ふるさと歴史館
〃	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
〃	丸善株式会社
〃	満鉄会
〃	港区総務部 総務課 人権・男女平等参画係
〃	港区立港郷土資料館
〃	民音音楽博物館 (民主音楽協会)
〃	明治大学史資料センター
〃	明治大学博物館
〃	目黒区めぐろ歴史資料館
〃	靖國神社 遊就館

都道府県	寄贈者名
東京都	靖國神社社務所
神奈川県	JICA海外移住資料館
〃	大磯町郷土資料館
〃	小田原市経済部観光課城址公園係
〃	神奈川近代文学館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
〃	女子美術大学美術館
〃	戦時下の小田原地方を記録する会
〃	平塚市博物館
〃	明治大学平和教育登戸研究所資料館
〃	横浜開港資料館
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
〃	横浜みなと博物館
新潟県	新潟市歴史博物館
富山県	富山市郷土博物館
〃	富山市民俗民芸村
石川県	石川県立美術館
〃	石川県立歴史博物館
福井県	福井県立歴史博物館
〃	福井県立若狭歴史博物館
長野県	飯田市美術博物館
〃	旧制高等学校記念館
〃	長野県ニューギニア会
〃	長野県立歴史館
〃	松本市立博物館
〃	松本市立博物館分館 重要文化財旧開智学校校舎
静岡県	島田市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	浜松市博物館
〃	焼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
〃	岡崎市美術博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	戦争と平和の資料館ピースあいち
〃	名古屋市博物館
三重県	三重県総合博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	京都国立博物館
〃	京都市学校歴史博物館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪市東淀川区役所
〃	大阪歴史博物館
〃	株式会社濤標
〃	(財)大阪国際平和センター
〃	(財)阪急文化財団池田文庫
〃	堺市立平和と人権資料館 (フェニックス・ミュージアム)
奈良県	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山県立博物館

都道府県	寄贈者名
和歌山県	和歌山市立博物館
岡山県	岡山市保健福祉局福祉援護課
〃	津山郷土博物館
広島県	呉市海事歴史科学館
〃	公益財団法人 広島平和文化センター
〃	広島県立歴史博物館
〃	広島県立歴史民俗資料館 (みよし風土記の丘)
山口県	下関市立考古博物館
〃	周南市美術博物館
香川県	さぬき市文化財保護協会大川支部
〃	高松市役所 人権啓発課 平和記念係
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高知県	公益財団法人 土佐山内記念財団
〃	高知県立高知城歴史博物館
〃	高知市立自由民権記念館
福岡県	北九州市立自然史・歴史博物館
〃	福岡県遺族連合会
〃	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
〃	福岡市美術館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
長崎県	長崎原爆資料館
〃	長崎県文化観光物産局文化振興課
〃	長崎歴史文化博物館
大分県	大分市歴史資料館
宮崎県	宮崎神宮
〃	みやざき歴史文化館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター 黎明館
〃	薩摩川内市川内歴史資料館
鹿児島県	南九州市教育委員会 文化財課 (ミュージアム知覧)
沖縄県	沖縄県文化振興会 公文書管理課
〃	沖縄県平和祈念資料館
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
岩手県	熊谷五郎
福島県	諸原孝夫
〃	渡邊一雄
茨城県	住谷登志男
〃	宮内大輔
群馬県	東宮春生
埼玉県	今吉孝夫
千葉県	荻原大地
〃	蒲池廉一郎
〃	柴敏子
〃	高辻啓
〃	高橋直子
〃	寺門隆夫
〃	丁子源三郎
東京都	在原義男
〃	伊藤由起子
〃	江川邦江
〃	大野益弘
〃	大本真理子
〃	岡田安代
〃	笠原明弘
〃	加藤裕
〃	金田正也
〃	川邊洋子
〃	北野充繪
〃	小山規子
〃	寒川藏雄
〃	重野吉治

都道府県	寄贈者名
東京都	鈴木昇一
〃	高橋加代子
〃	高橋正
〃	竹中みゆき
〃	土谷孝子
〃	中島義之
〃	永谷浩司
〃	中村洋太朗
〃	西川夏代
〃	西守
〃	馬場香織
〃	福島厚太郎
〃	増子眞裕美
〃	町田ルミ子
〃	三井香織
〃	宮原誠
〃	持田晃
〃	山田晴久
〃	横山讓二
神奈川県	及川研二
〃	岡部滋
〃	櫻井光夫
〃	清水妙子
〃	鈴木恵子
〃	中里幸子
〃	野口英行
新潟県	木村一貫
石川県	畝林謙三

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
福井県	九ノ里俊一
〃	三武光子
山梨県	伊藤まなみ
〃	笠井勲
〃	望月せい子
〃	和田秀子
長野県	久保田真一
〃	竹村淳
愛知県	青木健治
〃	朝倉純子
〃	宇佐美京
〃	小林光昭
〃	恒川利雄
〃	原優介
〃	森本宏
三重県	河瀬照代
京都府	井上祐子
大阪府	福山琢磨
和歌山県	田中葉子
岡山県	羽根岡伝治
広島県	太田峻三
高知県	坂本功
福岡県	井上洋子
〃	品川洋子
〃	山下新一郎
〃	渡辺いづみ
アメリカ	クロフォード典子

映像・音響資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
埼玉県	今吉孝夫
〃	関昭義
東京都	江川邦江
〃	篠崎喜美子
〃	石橋佐知子
〃	早川松男
〃	持田晃
〃	堀井敬一
〃	吉川正博
〃	北野充繪

都道府県	寄贈者名
東京都	重野吉治
〃	山田晴久
〃	大本真理子
〃	宮下夏生
〃	高橋正
〃	西堀明男
〃	馬塚貞男
〃	稲吉奈津子
神奈川県	金子清美
〃	太田方子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
神奈川県	松原高秋
山梨県	小石孝夫・ロベルタ
長野県	久保田真一
〃	坂口浩
〃	渡辺惣伸
三重県	河瀬照代
愛知県	平林節夫
〃	青木健治
〃	森本宏
〃	朝倉純子
アメリカ	クロフォード典子

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	国会図書館憲政資料室

昭和館館報 第18号 (平成28年度)

平成29年7月発行

編集発行

昭和館

〒102-0074

東京都千代田区九段南1-6-1

電話03(3222)2577